

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家ぎふ(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番地16号		
自己評価作成日	平成26年9月2日	評価結果市町村受理日	平成26年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101618-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

掃除や毎日の食事の準備、買い物等毎日同じ事の繰り返しですが、ひとつひとつに利用者様が関わり、できる事の達成感、喜びを感じてもらえるよう、さりげない支援を心がけています。ここでの暮らしが長くなるほどできる事が段々と少なくなってしまうますが、安心できる生活が続くよう馴染みのスタッフが支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、今の場所へ引越して3年目を迎え、それまで築いた実績を基に、より質の高いサービスを提供している。職員は、利用者が日々達成感や、喜びを感じられるように、その人らしく暮らせるように取り組んでいる。その基本となる自己評価は、全職員で検討を加え、向上心を高めている。食事は、家庭的な手作り料理で職員と共に食し、会話も弾んでいる。外出では、四季折々の風情を楽しむなど、生きがいのある生活を送っている。家族とは、協力関係を築き、医療面では、それぞれの主治医と、24時間の連絡体制を取り、安心感を支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活できるよう考え、ケア会議に意見を出し、介護計画を作っています。	理念は「その人がその人としてその人らしく」と掲げ、その基本に沿った、当たり前の暮らしを支援している。住み慣れた地域と、日々関わりながら、その人らしい生活ができるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板をまわしてもらい、町内清掃など参加させて頂き、子ども110番の家に協力しています。散歩、近所のスーパーに買い物に行き、挨拶をしています。	自治会の一員であり、地域の清掃活動や祭りなどの行事へ参加している。また、回覧板で、地域の情報を確認している。ピアノ演奏や落語など、地元のボランティアが、継続して訪れている。	開設3年目を迎え、地域に認知されている。さらに、地元の小中学生や園児との相互交流の促進に期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買物などを通して認知症に対する理解や支援の方法を日常的な事として発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、包括、市担当者、ご家族などを招き、状況を報告しています。時にはご家族が参加しやすい週末に開催しご利用者とおはぎを食べたり、非常食の試食をしながら防災について話し合いました。	運営推進会議は、隔月に開催をしている。参加者と防災についての話し合いや、利用者の嚙下力対策や口腔ケアの現状を説明するなど、活発な意見交換をしてサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者を招き、報告しています。必要な時は、市役所に出向き相談しています。	福祉事務所や介護保険課に、出向いたり、電話等で困難事例を相談し、助言を得ている。また、市の担当者へは、ホームの実情を、随時報告している。地域包括支援センターとも、緊密な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修やホーム内で身体拘束について、どんな事が拘束にあたるのかを学び、玄関は夜間以外は開放、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束について学び、拘束をしないことを、全職員に徹底をしている。見守りとさりげない対応で、個々の人格を尊重し、配慮するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で勉強会を開き、防止に努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	利用している方がおられるので関係者と連携しています。職員には勉強会を開き、活用方法など学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、改定時は説明を行い、不安点や疑問点を確認しています。特に入居前は1時間ほど時間を作って頂き説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ホームの様子を便りにご家族にお送りしています。ブログや便りを通じて日常の様子を知っておられ、要望や感想など聞かせて頂いています。	家族の訪問時やホーム便りで、本人の様子を伝え、意見等を聞いている。食事面や衣服着脱に関する改善の要望があり、それらを、職員間で話し合い、日々のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見が出ています。ミーティング以外でも意見や提案があれば聞き、必要であれば反映させています。	定例の職員会議や日々の支援の中で、意見・提案を、拾い上げている。個々に合った、座位の角度や使いやすいコップの採用、食べ残しのない食事の工夫などを提案し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、向上心を持ち、安心して働けるよう職場環境・条件などの整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を開いています。外部の研修にも積極的に参加するよう促し、研修に参加したい場合は勤務を調整をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の研修に参加して交流できる機会を作っています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談をさせて頂き、ご本人、ご家族、関係者より聞き取っています。入居初期も時間を多く取り話をよく聞き、様子を伺い安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期に必ず時間を作って頂き、話を聞かせてもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず面談を行い、必要な支援、サービスを見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などそれぞれのできる事を引き受けながら、助けあってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、共にご本人と一緒に支えていく姿勢でいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族に協力頂き、馴染みの場所に出かけて頂いたり、会話の中に取り入れるようにしています。	知人や親類の訪問が多い。家族とは、外出や墓参りなど、馴染みの場所へ出かけている。また、利用者仲間が、ユニット間を行き来して談笑をしている。買い物の際は、知人と出会える店を選択している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性質を把握し、うまく関わり合え、楽しく過ごせるよう見守り仲介しています		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされるのなら、いつでも相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートより本人の希望を発見してスタッフ間にて共有しています。困難な場合は入居前の生活歴等を参考にしたり会話等を通して利用者の願いを探り、自分ならどうしてほしいか考えています。	日常の会話や仕草から思いを拾い上げている。言葉の出ない人へは、話かけ方を工夫し、編み物の好きな人には、家族に用具を持参してもらうなどして編み物をしてもらうなど、個々の意向や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、サービス担当者などから聞き取りし、これまでの暮らしを把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録を残し、毎月のミーティングで職員間で確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のケア会議の前にご家族や主治医から意見を聞き取りし、それらを踏まえながらケアのあり方について職員間で話し合い、介護計画を見直し、修正しています。	毎月のケア会議で、アセスメントを行い、職員間で、支援経過をふり返り、介護計画を作成している。身体状況により、家族の意向や主治医の指導を受け、安心して暮らせるよう計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個人記録に記入、毎月のミーティングで職員間で情報を共有、実践しており、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に協力頂きながら、柔軟な対応ができるよう努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近所のいつもの店を利用し、見覚えのある環境で安心して楽しみながら人と関わりが持てるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続頂いており、受診、往診の選択はご本人、ご家族の希望を優先しています。受診はご家族での対応を基本として頂き、適切な医療を受けられるよう主治医と良い関係が築けるように努めています。	個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。本人、家族の希望により、月に2回の往診、受診の選択ができ、24時間の連絡体制が整っている。受診は、基本は家族が行い、緊急時は、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との関わりを設けていないが、心配な時は主治医に電話で相談、指示が頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は主治医に連絡し、情報提供して頂いており、ホームからは介護サマリーを提供しています。いつでも退院、受け入れできるよう病院関係者とも情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度の話し合いでは決められない事柄なので話し合いを重ねながら方針を決めています。	重度化と終末期の対応を、早い段階から家族に説明し、医療行為が必要な時は、移行するとしている。緊急時や重度化の対応について、ホームのできる範囲までとし、同意書を交わしている。	重度化に対応すべき、様々なケースも予想される。職員間での認識と、かかりつけ医と家族との面談などで、意思の疎通が図れるように期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日曜救命救急講習に順番に受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は消防署の立ち合いの元、避難訓練を行っています。その内の1回は夜間を想定で行っています。	年に2回、消防署立ち合いのもと、消火器の使い方を利用者と共に学び 避難誘導の訓練をしている。水害を想定して、二階への階段を登る練習もしている。備蓄を確保し、様々な想定で自主訓練も行い、地域との協力体制ができている。	

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあわせた言葉がけをしており、時には家族のような声のかけ方をする時もあります。誇りやプライバシーは自分に置き換えるようにしています。	周囲に配慮した言葉がけや、視線を合わせて、穏やかなトーンで話しかけている。全職員が「自分がされて嫌なことは決して行わない」という意識を持ち、日々の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた方法で自己決定がしやすいよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、1日を過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう声掛け、見守りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に合わせ、職員と一緒に下ごしらえをし、盛り付け、食器拭きは見守りしつつお任せしています。	食事は、3食とも各ユニットで手作りし、利用者は、野菜を切ったり、盛りつけなどを手伝っている。職員も同じテーブルで、食べたい献立の話題などで談笑している。朝は、パンとご飯を選択でき、その人の好みに合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量、水分摂取が確保できるよう水分量を記録し、メニューは献立表を見て同じにならないよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いにならないよう毎食後に口腔ケアが出来るようにしています。口腔ケアできない方はうがい、うがいが難しい方は食後のお茶、お茶も難しい方はゼリーと潤うように努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあったトイレのリズムで誘導し、失禁を防ぐように努めています。	職員の細かな誘導と配慮により、排泄の自立ができている人が多い。失敗が少なくなることで、会話と笑顔が増え、食欲も出るなど、その人らしさを保つことに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容の工夫やお腹に優しい物(ヨーグルトやオリゴ糖)を使っています。テレビ体操や、入浴等少しでも動いて頂くよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入れるよう毎日お風呂を準備しており、その人にあったタイミングで入浴して頂いています。入浴がお好きでない方は時間を置いて声掛けをし、入浴したい気分になられるまで待たせて頂いています。	毎日でも入浴できる体制ができている。リラックスして入浴し、介助者と思いを語り合っている。重度の人は、複数の介助で行い、入りたくなくても強制せず、本人の意思に任せている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、それぞれのペースで休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイリングし、全職員が確認するようにしています。薬が変更、追加した場合は申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に合わせて、家事や外出など楽しく暮らせるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所の買い物によく出かけます。遠方へはご本人の力や体力、希望を考慮しつつ支援しています。	四季折々、名所地へ外出をしている。希望者で買い物や近所の散歩へ出かけている。重度の人は、車いすでの散歩や、ベランダで外気浴を行うなど、気分転換をしながら、心理面が安定するように支援をしている。	

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かりしています。お菓子や日用品などの買い物の際は個別の財布を持って出かけます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から荷物が届いた時は電話して届いた事を伝えて頂くよう声掛けしています。ご家族向けの年賀状に一言や名前を書いて頂く事も声をかけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面所に季節の花を飾って四季を感じてもらっています。良い香り又は無臭に心がけ清潔であるようにしています。	リビングは広く、利用者の動きが、よく見える設計である。廊下の要所に、椅子やソファを置き、一人でのんびりしたり、仲間で寛げる場所がある。窓や玄関からは、さわやかな風が入り、居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置き、テーブルを3箇所に分け、思い思いに過ごせています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や使い勝手が良いようご本人、ご家族と相談しながら部屋作りをしています。	居室は、自宅で使っていたタンスなどの家具を持ち込み、使いやすく配置をしている。本人の状態に応じ、ベッドではなく、マットレス敷きに変更も可能としている。職員が、家族と共に、本人が落ち着けるような部屋づくりに工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や靴箱には名前を付けわかるようにしています。居室内はご本人の動線を元に家具の配置を考え、廊下、階段、トイレには手すりを設け利用者はそれを使って移動しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家ぎふ(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番地16号		
自己評価作成日	平成26年9月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成26年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく生活出来るようミーティングなどで話し合い、サービスにつなげています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回し、清掃活動などに参加しています。また、ゴミ出し、買い物など近所に出た時に積極的に挨拶しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物などを通して認知症に対する理解や支援の方法を日常的な事として発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、包括、市担当者、ご家族、ご本人などを招き、状況報告しています。今年もご家族が参加しやすい週末に開催しご利用者とおはぎを食べたり、非常食の試食をしながら防災について話し合いました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市担当者を招き、報告しています。必要な時は市役所に出向き相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間以外はしていません。ホーム内外で身体拘束について、どんな事が拘束にあたるのかを学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内で勉強会を開き、防止に努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	職員には勉強会を開き、活用方法など学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、改定時は説明を行い、不安点や疑問点を確認しています。特に入居前は1時間程時間を作って頂き説明し、理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ホームの様子を便りにしてご家族にお送りしています。ブログや便りを通じて日常の様子を知っておられ、要望や感想など聞かせて頂いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや個人面談、日々気付いた時に意見を聞き反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、向上心を持ち、安心して働けるよう職場環境・条件などの整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を開いています。外部の研修にも積極的に参加するよう促し、研修に参加したい場合は勤務を調整しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の研修に参加して交流出来る機会を作っています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談させて頂き、ご本人、ご家族、関係者より聞き取っています。入居初期も時間を多く取り話をよく聞き様子を伺い、安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居初期に必ず時間を作って頂き、話を聞かせてもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず面談を行い、必要な支援、サービスを見極めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等それぞれのできる事を引き受けながら、助けあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、共にご本人と一緒に支えていく姿勢でいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力頂き、馴染みの場所に出かけて頂いたり、会話の中に取り入れるようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性質を把握し、うまく関わり合え楽しく過ごせるよう見守り仲介しています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされるなら、いつでも相談や支援に努めます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、願いを伺い、アセスメント、モニタリングに書き入れ把握、推測に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、サービス担当者などから聞き取りし、これまでの暮らしを把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録を残し、毎月のミーティングで職員間で確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のケア会議の前にご家族や主治医から意見を聞き取りし、それらを踏まえながらケアのあり方について職員間で話し合い、介護計画を見直し、修正しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など個人記録に記入、毎月のミーティングで職員間で情報を共有、実践しており、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族に協力頂きながら、柔軟な対応が出来るよう努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物は近所のいつもの店を利用し、見覚えのある環境で安心して楽しみながら人と関わるが持てるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続頂いており、受診、往診の選択はご本人、ご家族の希望を優先しています。受診はご家族での対応を基本とし、適切な医療を受けられるよう主治医と良い関係を築けるように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との関わりを設けていないが、心配な時は主治医に電話で相談、指示、往診などで対応できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は主治医に連絡し、情報提供して頂いており、ホームからは介護サマリーを提供しています。いつでも退院、受け入れが出来るよう病院関係者とも情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度の話し合いでは決められない事柄なので話し合いを重ねながら方針を決めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日曜救命救急講習に順番に受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に2回の避難訓練を消防署立ち会いの元に身につけるようにしています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないよう配慮しつつ声掛け、方言も使いつつ人格を尊重した言葉かけするようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせた方法で自己決定がしやすいよう働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを優先するのは難しいが、一人ひとりのペースを大切にして過ごして頂けるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人らしいおしゃれ、清潔な身だしなみが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付け等手伝って頂きながら食事を美味しく楽しんで食べてもらえるよう準備しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の力に応じて水分確保、栄養摂取できるよう声掛け、支援し、摂取量、水分量は全て記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	無理強いにならないよう努めていますが、朝、就寝前は必ず行っています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録してパターンをみつけ、時間を見ながらトイレ誘導を行い、パッド使用を減らしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食事や水分摂取で予防を心がけ、歩行運動や腹部マッサージなど一人ひとりの状態に合わせて支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしており、希望やタイミング、個々の体調等に合わせて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決まっておらず、それぞれのペースで休息して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイリングし、全職員が確認するようにしています。薬の変更、追加になった場合は申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に合わせて、家事や外出など楽しく暮らせるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の買い物、散歩によく出かけています。季節(桜、モミジ)のお出かけ等は希望に添って出かけていますが、ご利用者のADLにより外出する人が一部になっています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かりしています。お菓子や日用品などの買い物の際は個別の財布を持って出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から荷物が届いた時は電話して届いた事を伝えて頂くよう声掛けています。ご家族向けの年賀状に一言や名前を書いて頂くよう声をかけています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口に季節の花を飾って四季を感じてもらっています。空調、明かり、香りなど心地よく過ごして頂けるようこまめに調節しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、リビングなどソファで思い思いに過ごしてみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の好きな物、使い慣れた布団、タンス等を置き、居心地よく生活できるようにご本人、ご家族と相談しながら居室を工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、靴箱には名前をつけ分かるようにしています。居室内はご本人の動線を元に家具の配置を考え、廊下、階段、トイレには手すりを設け利用者はそれを使って移動しています。		